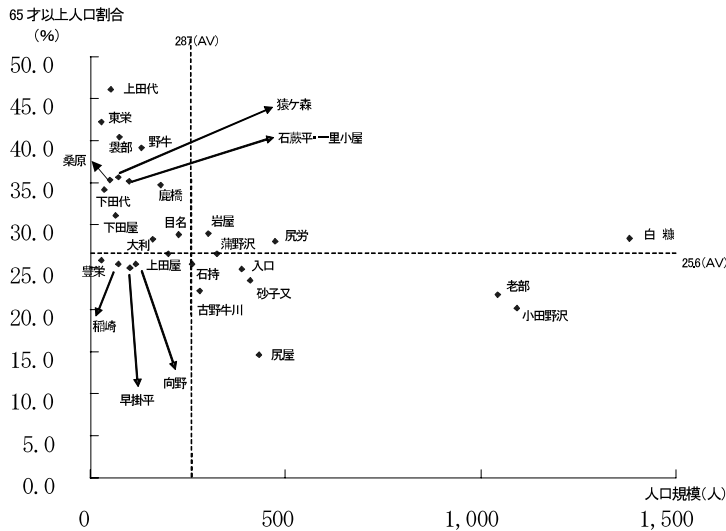


「東通村集落再生方策構築業務」はじまる！

(図1) 集落別人口規模と高齢化(65才以上)率の相関図



◆東通村集落再生方策構築業務

わが村を特色づける一つでもある29の集落には四季折々の景観や行事、祭り、歴史や遺跡、さらには人情やコミュニティ、自然、産品、加工品などが多彩にあり、古き良き文化が息づいています。

しかし、人口減少と少子高齢化の進展は集落の自治機能を低下させ、社会的共同生活の維持を困難にしつつあり、その対応は村政の重要な課題の一つとなっています。

(図1)

現在、整備が進められている東通村産地直接販売施設は、このような課題に対して第一次産業の振興、交流客の増加などとともにその波及は集落の活性化に結びつくことが期待されています。

「東通村集落再生方策構築業務」は、このような背景の下で、特に、産地直接販売施設の建設を契機として、新たな経済基盤の確立や集落として活性化を図る可能性を模索するため、砂子又集落を本業務の対象として位置づけ、『集落再生という視点から、その方向性等を検討し、「東通村地域資源活性化施設整備事業」により整備される産地直接販売施設への関わり、そして、地域資源を見つめ直し、皆が集まって砂子又の可能性について語り合うことにより地域の活力を生み出し、集落の再生、あるいは組織としての地域づくりなど、元氣な集落の模範となるよう活動できる方策を構築すること』を目的に実施するものです。

◆第1回ワークショップ

その第1回のワークショップ活動(注)が去る11月30日午後6時から集落の方々10名程度の参加を得て砂子又ふれあいの館で始まりました。

当日は、本業務担当課である経営企画課から「東通村産地直接販売施設等実施計画の概要」、「業務の遂行方針」、「なぜ集落・コミュニティが注目されるの

か」について説明が行われました。参加した住民の方々からは、いくつかの問題点の指摘はありましたが、大勢として役場と協働しながら本業務を遂行することの合意が得られました。

今後は、本年度末までにあと数回のワークショップを開催し、住民の方々自ら地図をもち、実際に集落をまわることで、生産・生活環境を点検し、問題や良さなどを話し合う集落点検活動や先行地のリーダーを招聘し意見交換の実施などを予定しています。

短期間の取り組みになりますが、砂子又の活動が「元氣な集落の模範」となるよう住民と役場の協働により共創して行きたいと思えます。今後の活動に期待して下さい。



ワークショップの様子

(注) ワークショップ「職場 作業場などの意であるが、最近ではまちづくりなどに関して、地域に関わる様々な課題に対応するため、様々な立場の参加者が共同作業を通じて地域の課題発見、創造的な解決策や計画案の考察、それらの評価などをおこなっていく活動として用いられることが多い」

【お問い合わせ】 経営企画課 経営企画G

(☎) 27-2111 内線224